

西トップ遺跡 現地事務所の開設

奈良文化財研究所では1993年度よりアンコール文化遺産保護に関する研究協力事業を進めており、1996年から2000年度にはタニ窯跡の調査を、2002年度からは西トップ遺跡の調査をおこなっています。

西トップ遺跡はアンコール・トムの中にあり、バイヨン寺院の南西に位置しています。奈文研では、西トップ遺跡に関わる考古学、建築、保存科学の各分野からの調査を進めており、昨年度の発掘調査では金やルビーなどを納めた鎮壇具や仏像など新たな発見が相次ぎました。

しかし、2008年に中央祠堂東面の石材40石ほどが落下するなど、祠堂群は大変不安定な状態にあります。そこで、これらを修復するため、2011年度から「西トップ遺跡等調査修復現地事務所」が発足し、2015年度までの5ヵ年計画で西トップ遺跡の調査・修復事業に取り組む運びとなりました。

6月から調査員が本格的に長期滞在を開始し、本事業にかかわる様々な業務に携わっています。早速6月8・9日には、アンコール遺跡の調査・修復に従事する各国調査団による「第20回国際技術小委員会」が開催され、奈文研も調査報告と修復事業について発表しました。同13・14日には「東南アジア窯跡研究会」が現地事務所で開催され、第一線で活躍中の研究者が世界各国から集まり、熱い議論が交わされました。また現地事務所に、新たに遺物展示コーナーを設けました。研究者だけでなく一般の方々にも広く私たちの活動を知っていただけるように、これからも展示を充実させていこうと考えています。皆様、ぜひ一度お越しください。

(企画調整部 佐藤 由似)



西トップ遺跡 現地事務所の外観